エコアクション21

環　境　経　営　レ　ポ　ー　ト

有限会社　山田土木

活動期間：2022年5月～2023年4月

発 行 日：2023年5月31日

第　11　版

目　　次

1. 環境経営方針

2. 会社概要

3. 実施体制図

4. 中期（4年）環境経営目標

5. 環境経営計画

6. 環境経営計画の実施状況評価と次年度の取り組み

7. 2022年度環境経営目標と実績

8. 2022年度　実績評価

9. 環境関連法規の遵守と違反・訴訟の有無

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

1. 環　境　経　営　方　針

　私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇などへの対応が人類共通の重要課題と認識しております。事業活動における環境負荷の低減、地域社会の維持と改善を図るために、社員一丸となって自主的・積極的に、環境経営の継続的改善に取り組みます。

経営理念

□ 品質の確保及び迅速な対応で顧客満足度を維持します。
□ チャレンジ精神をもち、出来る限り挑戦します。
□ ひとつひとつ確実に丁寧に施工します。

行動計画

1、取り組み内容。
① 電力・自動車・重機燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
② 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
③ 節水を心掛ける
④ 紙使用量の削減
⑤ 環境に配慮した建設工法の推進

2、環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3、環境方針は全従業員一人ひとりに周知し、継続的に取り組みます。

制定日：2012年10月1日
改訂日：2020年12月7日

有限会社　山田土木

代表取締役　山田章史

2. 会　社　概　要

事　業　所　名	有限会社　山田土木
代　表　者　名	代表取締役　山田章史
設　　立	1994年10月3日
所　　在　　地	〒861-3102 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉3790 - 5 TEL　096－237－0126 FAX　096－237－2367
資　材　置　場	本社　嘉島町下六嘉3790-5 サントリー横資材置場　嘉島町北甘木810 - 1・2・4 東部台地資材置場　嘉島町北甘木1893-1・1892-1
環境管理責任者	山田　章史
担　　当　　者	内村　貴久子
事　業　内　容	土木工事業 産業廃棄物収集運搬業（自社運搬のみ）
認証・登録範囲	全事業・全組織

産業廃棄物収集運搬業許可の詳細

許可番号	第04300136428号
許可の年月日	2017年6月29日
許可の有効期限	2022年6月28日
事業区分	収集運搬業（積替及び保管を含まない）
種類	紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず がれき類、汚泥、廃プラスティック類

産業廃棄物収集運搬許可車両の詳細

軽車両	1台
3ｔ積載	2台
4ｔ積載	3台
8ｔ積載	2台

事　業　規　模	2020年度　完成工事高　3.7億円 2021年度　完成工事高　3.1億円 2022年度　完成工事高　2.7億円
資　　本　　金	2000万円
従　業　員　数	18人
事　業　年　度	5月1日から翌年4月30日

3. 実　施　体　制　図

代表者　山田章史

環境管理責任者　山田章史

事　務　所	
責任者：内村貴久子	
項　目	主担当
電力使用量	内村
ガソリン使用量 軽油使用量	内村
一般廃棄物排出量 産廃リサイクル	吉永
水使用量の削減	内村
紙使用量の削減	吉永

工　事　現　場	
責任者：吉永一代	
項　目	主担当
電力使用量	渡邊
ガソリン使用量 軽油使用量	本田
一般廃棄物排出量 建設産廃リサイクル	市原
地域貢献	大城戸
水使用量の削減	森崎
工期短縮・環境に 配慮した工法の推進	山田

環境経営システム役割と責任

代 表 者　　環境方針の制定・改定、環境目標及び環境活動の承認
環境経営ｼｽﾃﾑ全体の取組状況の評価と全般的見直し(年1回以上)
環境取組に必要な資源・人材の確保

環境管理
責任者　　環境経営ｼｽﾃﾑ構築・運営の責任者
環境経営ｼｽﾃﾑの代表者への報告
環境目標と環境活動計画の確認、進捗確認と修正の指示
環境情報の外部への連絡、緊急事態発生時の判断
問題の是正と予防措置の判断・環境教育訓練の計画と実施
環境目標・環境活動計画の作成・環境文章作成発行

主 担 当　　環境目標と環境活動計画の進捗の把握・環境記録作成管理
環境実績データの集計・環境活動の事業所での推進

4. 中期（4年）環境経営目標

事業年度：5月～翌年4月

項　　目	単位	3年平均	2022	2023	2024	2025
		基準	目標	目標	目標	目標
1.　電力	kWh	6458.3	6393.7	6329.1	6264.6	6200.0
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
2.　ガソリン	ℓ	4284.7	4241.9	4199.0	4156.2	4113.3
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
3.　軽油	ℓ	47531.8	47056.5	46581.2	46105.8	45630.5
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
4.　灯油	ℓ	50.2	50.2	50.2	50.2	50.2
使用量削減		基準	維持	維持	維持	維持
5.　LPG	kg	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
使用量削減		基準	維持	維持	維持	維持
1～5　二酸化炭素排出量	kg-co2	134850.6	133502.1	132153.6	130805.1	129456.6
排出量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
6.　一般廃棄物	kg	175.0	173.3	171.5	169.8	168.0
排出量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
7.　建設産業廃棄物	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リサイクル率向上		基準	維持	維持	維持	維持
8.　水使用量	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
水使用量の削減		基準	維持	維持	維持	維持
9.　紙使用量（購入）	枚	6900.0	6831.0	6762.0	6693.0	6624.0
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
10.　地域貢献活動	回	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
現場･本社周辺清掃		基準	維持	維持	維持	維持
11.　工期短縮・環境に	回	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
配慮した工法の推進		基準	維持	維持	維持	維持
12.　売上に対する	kg-co2	389.5	385.6	381.7	377.8	373.9
二酸化炭素排出量	/売上	基準	-1%	-2%	-3%	-4%

※　5.　二酸化炭素排出量　＝(1.　電力)×九電H29年度排出調整後排出係数　0.463
＋(2.　ガソリン)×排出係数0.0671×単位発熱量34.6
＋(3.　軽油)×排出係数0.0687×単位発熱量38.2
＋(4.　灯油)×排出係数0.0679×単位発熱量36.7
＋(5.　LPG)×排出係数0.0598×単位発熱量50.2

※　13.　売上に対する～　二酸化炭素排出量/売上(百万円)　3年平均　売上317

2022年度の環境目標はすでにプログラムが進行中であることから2017年度ベースで設定。
2023年度以降の環境目標については、
2019年度～2021年度実績から設定しています。

5. 環境経営計画

項　　目	担当	具体的活動計画（事務所・工事現場）
1.　電力 使用量の削減	内村 渡邊	エアコンの設定温度の遵守とフィルターの清掃を行う こまめな消灯・退社時に電気機器の電源を切る 夏季の室温常用対策を行う
2.　ガソリン 使用量の削減	今本 本田	安全運転・エコドライブを行う アイドリングストップを行う 車両の燃費を向上させる
3.　軽油 使用量の削減	本田	車両はエコドライブ・アイドリングストップを行う 重機はアイドリングストップを行う 定期的な車両・重機の点検整備を行う
4.　灯油 使用量の削減	本田	休憩所でストーブを使用しない 防寒着等で寒さ対策を行う
5.　LPG 使用量の削減	吉永	必要以上にガスを使用しない お湯・シャワーを出しっぱなしにしない
6.　一般廃棄物 排出量の削減	吉永 市原	廃棄物の重量を測り、集計する ゴミ置き場に分別して置く
7.　建設産業廃棄物 リサイクル率向上	吉永 市原	分別を徹底する 伝票の管理を行う
8.　水使用量 水使用量の削減	吉永 森崎	水・シャワーを出しっぱなしにしない 高圧洗浄機で洗車を行う
9.　紙使用量（購入） 使用量の削減	今本	コピー用紙の購入履歴をつける 両面コピー・縮小印刷等で使用量を減らす
10.　地域貢献活動 現場･本社周辺清掃	大城戸	月に一回、各現場周辺の清掃活動を行う 3ケ月に一回、本社周辺の清掃活動を行う
11.　工期短縮・環境に 配慮した工法の推進	渡邊	施工計画策定時に工法検討会議を行う 随時、履行状況の確認と変更の必要性を検討する

6．環境経営計画の実施状況評価と次年度の取り組み

項　　目	実施状況	評価及び次年度の取組み
1.　電力 使用量の削減	△	熱中症対策と室温調整の両立が難しい。
2.　ガソリン 使用量の削減	○	バッテリー工具を使用し発電機の使用を極力控える等ガソリン使用量の削減ができている。
3.　軽油 使用量の削減	○	オペレーターへの周知を行っている。
4.　灯油 使用量の削減	○	ストーブを使用しなかった。
5.　LPG 使用量の削減	○	徹底している。
6.　一般廃棄物 排出量の削減	○	徹底している。
7.　建設産業廃棄物 リサイクル率向上	○	徹底している。
8.　水使用量 水使用量の削減	○	徹底している。
9.　紙使用量（購入） 使用量の削減	○	徹底している。
10.　地域貢献活動 現場･本社周辺清掃	○	徹底している。
11.　工期短縮・環境に 配慮した工法の推進	○	各現場で対策を行っている。

7. 2022年度環境経営目標と実績

取組み期間：2022年5月1日～2023年4月31日（12か月）

項　　目	単位	3年平均	2022	2022 実績	2022 想定
		基準	目標	目標達成率	
1.　電力	kWh	6458.3	6200.0	5004.0	
使用量削減		基準	-4%	124%	
2.　ガソリン	ℓ	4284.7	4113.3	1472.0	
使用量削減		基準	-4%	279%	
3.　軽油	ℓ	47531.8	45630.5	43493.9	
使用量削減		基準	-4%	105%	
4.　灯油	ℓ	50.2	50.2	0.0	
使用量削減		基準	維持	0%	
5.　LPG	kg	5.3	5.3	2.1	
使用量削減		基準	維持	252%	
1～5 二酸化炭素排出量	kg-co2	134850.6	129456.6	117984.5	
排出量削減		基準	-4%	110%	
6.　一般廃棄物	kg	175.0	168.0	124.0	
排出量削減		基準	-4%	135%	
7.　建設産業廃棄物	%	0.0	0.0	0.0	
リサイクル率向上		基準	維持	100%	
8.　水使用量	%	100.0	100.0	100.0	
水使用量の削減		基準	維持	100%	
9.　紙使用量（購入）	枚	6900.0	6624.0	8500.0	
使用量削減		基準	-4%	78%	
10.　地域貢献活動	回	3.0	3.0	3.0	
現場･本社周辺清掃		基準	維持	100%	
11.　工期短縮・環境に	回	5.0	5.0	5.0	
配慮した工法の推進		基準	維持	100%	
12.　売上に対する	kg-co2	389.5	373.9	433.8	
二酸化炭素排出量	/売上	基準	-4%	86%	

8．2022年度　実績評価

取組み期間：2022年5月1日～2023年4月31日（12か月）

項　　目	単位	実績に対する評価
1.　電力 使用量削減	kWh	売上減少により使用量が減少した。
2.　ガソリン 使用量削減	ℓ	売上減少及び営業の退職により使用量が減少した。
3.　軽油 使用量削減	ℓ	売上減少により使用量が減少した。
4.　灯油 使用量削減	ℓ	ストーブを使用する現場がなかった。
5.　LPG 使用量削減	kg	給湯器の使用が減った。
1～5 二酸化炭素排出量 排出量削減	kg-co2	売上減少により排出量が減少した。
6.　一般廃棄物 排出量削減	kg	維持する
7.　建設産業廃棄物 リサイクル率向上	%	維持する
8.　水使用量 水使用量の削減	%	維持する
9.　紙使用量（購入） 使用量削減	枚	紙納品を必要とする町の受注工事規模の増加に伴い増加した。
10.　地域貢献活動 現場･本社周辺清掃	回	維持する
11.　工期短縮・環境に 配慮した工法の推進	回	維持する
12.　売上に対する 二酸化炭素排出量	kg-co2 /売上	売上減少により排出量の比率が増加した

9. 環境関連法規の遵守と違反・訴訟の有無

過去3年間で環境関連当局から違反等の指摘や環境関連法規への違反、訴訟はありません。

環境活動レポートをまとめる際に法律の遵守状況を確認します。

法規制等の名称	該当する要求事項	順守評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の管理、搬出	○
建設リサイクル法	建設副産物の管理、再資源化、排出	○
騒音・振動規制法	規制基準の届出・順守	○
水質汚濁防止法	現場での事故等による応急措置と届出	○
フロン排出抑制法	3か月毎の簡易点検	○

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

基準を前年度までの3年平均としたことにより、以前より目標との差が正確に判断できる様になっているが、売上げの減少により、紙以外の項目で目標より下回ることが出来た。ただ、売上に対する二酸化炭素排出量だけが目標に達しなかったが、売上次第で数値が大幅に変わることがわかった。売上が下がったことで基準よりは良くなった様に見えるが、対策を講じている結果でもある。

・環境経営方針は

問題ない。

・環境経営目標は

問題ない。

・環境経営計画は

問題ない。

・実施体制は

問題ない。